授業科目名・形態	介護実習Ⅰ　　実習	必修・選択の別	選択	単位数	3
科目担当者氏名	石岡和志　柴田博　今野修	実務経験の有無	有	開講期	1年後期
科目ナンバリング	W6-1005c				

【授業の主題】

地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。また、本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。

介護実習Ⅰでは、利用者の暮らしや住まい等の日常生活の理解や多様な介護サービスの理解できるよう、利用者の生活の場として小規模多機能型居宅事業、認知症対応型共同生活介護事業等、居宅サービスを含んださまざまな介護現場での実習とする。

また、巡回指導では人間関係を形成しながら慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、施設等の利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解し、その生活を継続させるためには何が必要なのかという個別ケアの実践の重要性に気づけるよう指導する。

【到達目標】

1) 介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学び取る。
2) 講義・演習・学内学習で学んだ知識に基づき、利用者との人間的な関わりあいを深め、利用者が求めている介護ニーズに関する理解力、判断力を養う。
3) 地域における在宅福祉の役割や意義など考えながら体験する。

【授業計画・内容】

1．施設・在宅福祉の機能と介護福祉士の役割を理解する。
  1) 施設や組織の全体的な仕組みや業務の流れを理解する。
  2) 介護業務の全体像を理解する。
  3) 施設の在宅支援について理解する。
2．個別介護過程展開の実際を学ぶ。
  1) 挨拶など実習生としての基本的な所作を確立する。
  2) 利用者や職員とのコミュニケーションを図る。
  3) 記録すべき事柄について考察を加えて記録する方法を学ぶ。
3．生活支援技術を習得する
  1) 日常生活における基本的な生活支援技術を学ぶ。
  2) 利用者の障害や疾病について，必要な知識を身につける。

【授業実施方法】

基本的には学外実習形式で行い、巡回指導の際はスーパービジョンを実施する。

【事前・事後学習】

・介護総合演習Ⅰで学んだことを中心に30分の予習及び実習内容を踏まえた30分の復習を行うこと。
・認知症のグループホームやデイサービスなど通所介護については事前に調べて理解を深めておくこと。

【関連する主な科目】

介護の基本、介護総合演習、介護過程

【教科書等】

最新・介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習　第2版　中央法規出版

【参考文献】

泉順：介護実習への挑戦、ミネルヴァ書房

【成績評価方法】

実習記録50%、実習内容50%とし総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

福祉施設で介護職員として介護業務を経験してきた。介護の現場で経験を活かし、基本的な介護技術が修得できるように指導していきたい。

【学生へのメッセージ】

実習開始以前に基本的な社会性を身につけ、生活リズムを調整し，明確な目的意識を持って実習に臨んでほしい。